

## 国際抗てんかん連盟

### 国際抗てんかん連盟の設立

Errichtung einer internationalen Liga gegen Epilepsie.

Montag 29 August 12 Uhr im Kongreßgebäude in Buda-Pesth.

Epilepsie I. series, 1 : 232-234, 1909/10.

訳：佐藤 正敏（函館市・函館市立病院分院旭岡病院）

1909年、ブダペストにおいて、国際抗てんかん連盟（ILAE）が設立された。この連盟の設立に至るまでの経過ならびに“その後”今日に至るまでの歴史は、秋元波留夫先生の歴史的展望に詳しい（秋元・山内編：てんかん学，岩崎学術出版，東京，1984，pp.666-676）。1981年に、京都において、ILEA 主催の国際てんかん学会議が開催されたことは、まだ記憶に新しいところであるが、前後2回の世界大戦をはさんだ国際抗てんかん連盟の歩みの道は決して平坦なものではなかった。このことは、ILEA の機関誌「Epilepsia」の発刊が3回にわたって中断され、現在、われわれが手にしている Epilepsia 誌は、その第4シリーズであることからもうかがわれよう。

本稿は Epilepsia、第1シリーズ、第1巻に掲載された国際抗てんかん連盟設立の議事の模様を伝えた記事の訳出である。

なお、ILEA（International League against Epilepsy）は、これまで、国際てんかん連盟と邦訳されていたが、最近では、国際抗てんかん連盟と訳されている。（福島）

ブダペスト国際会議場、8月29日、月曜日12時。

Donath 氏は、Dr. Muskens との連盟において、すでに、アルコール中毒や、結核や、癌について行われているのと同じように、てんかんの研究や治療のためにも、今日、国際的な協力が重要な重要な時期に至っていることを強調した。参席者は、みな同意見で、国際てんかん連盟の設立に向けて努力することになった。そして、満場一致の賛同の下に、パリの Dr. Marie に、議長を要請した。

この会議の出席者は Anton, Balint, Bonebakker, Bourillon, Cabred, Catsarca, Deenik, Van Deventer, Donath, Dubief, Erpstein, Eykman, Ferrari, Fischer, Frank, Frankl-Hochwart, Fiedländer, Fuchs, Giese, Graves, Greidenberg, Hajos, Hebold, Hollos, Von. Hovorka, Hudovernig, Juba, Kollarits, Ley, Macpherson, Medeiros, Meihuizen, Moreira, Obersteiner, Oppenheim, Pel, Roubinovitch, Rouley, Sachs, Sommer, Stichel, Szigetti, Tamburini, Wosinski の各氏であった。

Marie 議長は、発言者達の意見を受けて、すべての文化国家において、それぞれの国に独自の委員会を設置し、連盟を組織すべきであると提案した。そして、若干の討議の後、Donath, Graves, Greidenberg, Hebold, Marie, Moravcsick, Moreira, Muskens, Obersteiner および、Tamburini の各氏が、暫定的に、国際委員会の委員に任じられた。Donath, Hudovernig,

Moravcsick の各氏は、ハンガリー委員会の委員に選ばれたが、その委員会は、さらに、独自の判断によって、委員を追加することになった。オーストリアでは、Von. Frankl-Hochwart, Fuchs, Halban, Obersteiner の各氏。オランダでは、Bonebakker, Coert, Van Deventer, Lykles, Muskens, および Pel の各氏。ドイツでは、Bratz, Cramer, Friedländer, Hebold, Sommer, Vogt, Weygand の各氏。フランスでは、Claude, Landouzy, Marie, Raymond の各氏。イギリスでは、Macpherson, Turner の各氏。イタリアでは、Ferrari, Tamburini, Perusini の各氏。アメリカでは、Everett Flood, Graves, Sachs, Spratling の各氏。アルジェでは、Rouley 氏。ロシアでは、Greidenber Minor, Suchof の各氏が、それぞれ、委員として選出された。

次に、この連盟の来年の年次総会は、ベルリンにおいて、精神障害者福祉・施設制度国際会議に引き続いて開かれることに決った。そこでは、報告とともに、さらに広汎な議題について論議される。

Halban 氏はオーストリアにおけるてんかん患者のための施設と国立協会の設立計画をめぐってみられた遺憾な経験について語った。ウィーンでは、年間700名からの新規てんかん患者のために、わずか1ヵ所の外来診療施設しかないということ、また、60,000クローネの資金が調達されながら、それも返却しなければならなかった。そして、もし、その時、国際的連盟が存在していたならば、このような結末には至らなかったことは明らかであると述べた。彼はてんかんの問題は特別な研究と福祉の対象として捉えられるべきであるという要望を、この国際会議の閉会の際に表明して、今後の方向づけを示すべきであると提案した。

Donath 氏と Muskens 氏は、連盟が、独自の機関誌を持つまでの間は、連盟の発表機関として、新しい国際誌 "Epilepsia" を、無償で提供する用意があることを表明した。

また、Greidenberg 氏の提案で、次の会議に、事務局より、初年度事業計画が、出されることになった。

国際抗てんかん連盟の会議 1909年9月 議長：Tamburini 教授

Donath 氏、Muskens 氏によって、あらかじめ提出されていた事業計画について、Fuchs, Halban, Hebold, Szigetti, Sommer の各氏の討論が行われた後、次の提案が起草された。国際抗てんかん連盟の初年度の事業計画に関する事務局提案。

1. すべての国々において、てんかん患者の統計を、次の2群に分けて、行うことは焦眉の急を要する問題である。すなわち、
  - a. 施設入所を要しない新鮮例
  - b. 施設入所を要する慢性例。
2. 病院および収容施設は、現在どの位あるのか。  
年間、どの位の新規入院患者があるのか。
3. 最近の5年間に、各種、私・公立病院ならびに、療養所で治療を行ったてんかん患者の数は、どの位か。

外来治療に関して、現在、通院している患者は、どの位か。

4. イギリス、ドイツ、ハンガリーで、癌について行っているのと同じように、各国政府に、それぞれの国での、てんかん患者の公式統計に着手することが要請される。軍隊においても、新兵にみられるてんかん患者の数を報告が求められる。
5. さらに、各国における、てんかん患者福祉についての展望が求められる。また、最近の

国勢調査によって、どの位の数のてんかん患者が確認されたか。

6. 各国政府は、政府に提出された、てんかん患者の極端な犯罪性ということにも、注意を払うべきであろう。

Eykams の提案で、この連盟が、独自の機関誌を持つまでの間は、“Epilepsia” を機関誌とすることに決定した。

Tamburini 議長は、来年のベルリンでの会議では、全日程を、てんかんを対象とした会議に費やし、単に、報告されたことの討論だけではなく、病因論や、その他の学術上の問題点についても、討議しようと提案し、出席者の賛同を得て、これが採択された。

この報告書は、実り多い討論が保証されるべく、来年の初めに発刊される “Epilepsia” 誌掲載のため送付されよう。

事務局